

L05a 火星から始めるプロアマ連携惑星観測データアーカイブセンター構想

中串孝志、尾久土正己 (和歌山大・観光)、富田晃彦 (和歌山大・教育)

本稿で提案するのは、世界中のプロとアマをリンクさせる惑星観測データセンターをインターネット上に構築するプランである。

このようなデータアーカイブ・プロジェクトは、少なくとも火星については過去に存在した。筆者らはこのデータアーカイブを用いて火星現象総括を行い、学術論文として出版するプロジェクトを2003年にスタートさせた。

惑星大気は様々なタイムスケールの変動を見せるので、継続的な観測が不可欠である。長期的・連続的な観測が可能なプロアマ連携観測という手法は、(火星に限らず)惑星気候の変動を解明する端緒となり得る。特に外惑星に関しては、長い公転周期のために大局的な「季節」変動すら明らかとは言えないので、地道な撮像データの集積が必要であり、そのためにはアマチュア天文家の高い技術力が不可欠である。またそれらのデータを適切に提供するためのシステムが必要である。そこで、実例の多い火星についてのシステム構築を足掛かりとして、それを延長する形で全惑星を対象とした「惑星観測データセンター」を構築し運用することを検討する。

このプロジェクトを、火星から全惑星へと拡張するための道のりには、以下の3段階が考えられる：(1) 火星共同観測データセンターの構築 (2) 専門的研究との融合 (3) 汎惑星共同観測データセンターの構築。そしてクリアすべき課題が4つあると考えられる：(1) 投稿者向け Web インターフェースの開発 (2) 管理者向けインターフェースの開発 (3) 運営費の確保 (4) 研究者の確保。

折しも2009年後半～2010年は火星接近期に当たる。これに合わせて火星撮像データ集積を目的としたウェブサイトを実際に立ち上げ、運営していくことで、具体的課題を発見し、全惑星へと拡張するための方策、そして「サステイナブルな」運用を可能にする方策を探ろうと考えている。